

令和7年度 山県市商工会経営発達支援計画実施評価表

- 評価基準
- A：目標を達成することができた（100%以上）
 - B：目標を概ね達成することができた（80～99%）
 - C：目標を半分程度しか達成することができなかった（30～79%）
 - D：目標をほとんど達成することができなかった（30%未満）

区 分	項 目 取組方針	評 価
I. 経営発達支援事業の内容	1. 地域の経済動向調査に関すること 地域の経済動向については、収集したデータを外部専門家等も活用しながら集計・分析し、事業者目線で分かりやすく利用しやすいレポートとして提供する必要がある。 また、ビッグデータ等を活用した専門的な分析及び結果の情報提供を行うことで、事業計画策定に有効活用できるようにする。	A
	2. 需要動向調査に関すること より多くの事業者に対して「イベント、展示会を活用した需要動向調査」を通して、有益な情報を収集・提供することで販路開拓や新商品開発につながるよう、マクロデータ等を活用した独自の分析を実施したうえで、着実に事業者へフィードバックする。	A
	3. 経営状況の分析に関すること 決算書などの財務諸表をもとにした定量的な分析だけではなく、定性分析も併せて実施することで事業者に潜在的、本質的な課題や問題点への気づきを与えるとともに事業計画の策定に活用する。また分析結果をデータベース化し内部共有を行い円滑な支援に活用する。	A
	4. 事業計画策定支援に関すること 事業者自身が事業計画策定の意義や重要性を十分に腹落ちした上で、実質的な行動や意識変化につながるよう「事業計画策定セミナー」のカリキュラムを工夫する。 事業計画策定に取り組む事業者のうち、長期的かつ高額な設備投資を行うことを前提とした高度な事業計画を策定する事業者に対しては、中小企業診断士による専門的なアドバイスを実施するための個別相談会を開催する。	A

	5. 事業計画策定後の実施支援に関すること 事業計画を策定した全ての事業者を対象に、事業計画の進捗状況や事業者の課題等により、訪問回数を増やして集中的に支援すべき事業者と、ある程度順調と判断し訪問回数を減らしても支障ない事業者とを見極めた上で適宜フォローアップを行う。また、商工会としても経営指導員が定量的な事業成果を確実に把握することで、次の事業展開も踏まえた伴走型の支援を行う。	A
	6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 各種展示会等への出展を支援する。出展にあたっては、経営指導員等が出展に関する一連の支援を行うとともに、出展後には、成果の検証・分析を含めたきめ細かな伴走支援を行う。DX に向けた支援は、SNS 情報発信、EC サイトの利用等の初歩的な支援から、データに基づく顧客管理や販売促進等の高度な利活用まで幅広く対象とする。支援にあたっては必要に応じて IT 専門家派遣等を実施するなど事業者の段階に合った対応をする。	B
Ⅱ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援能力向上のための取組	7. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること 「経営発達支援計画評価委員会」を継続して開催し、計画実施状況の評価、改善提案された内容を検討しながら、より地域の小規模事業者に対して効果的な支援を実施していく体制とする。そのため、外部有識者も委員に含め経営発達支援計画の PDCA を各年度で行い、より効果的な支援を実施していく。	A
	8. 経営指導員等の資質向上等に関すること 山県市商工会として地域の小規模事業者に、より貢献できる支援を実施していくために職員の知識及び支援スキルの向上を図る。そのために、各種研修会への積極参加、職員間での勉強会の定期開催、OJT・Off-JT の継続等を実施する。	A